



<プレスリリース>

2025年1月16日
スペースワン株式会社

2024年のラウンドにおいて新たに資金調達を実施



小型ロケットの打上げにより「宇宙宅配便」を目指すスペースワン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 豊田正和、以下「スペースワン」）は、2024年中のラウンドで、株式会社 JR 西日本イノベーションズ及びオリックス株式会社から、追加の資金調達を実施しましたことをご報告します。

この度の資金調達において、スペースワンは、株式会社 JR 西日本イノベーションズとの間で、業務提携に関する覚書を締結しました。西日本を起点に強固な事業基盤と豊富な知見を有する JR 西日本グループとの連携を深め、ロケットの打上げが地域の内外にもたらす価値を創出・共有し、地域課題の解決に貢献してまいります。

また、オリックス株式会社には、同社初の宇宙産業関連企業の投資として、スペースワンを選んでいただきました。同社グループ会社、オリックス・レンテック株式会社は宇宙センターの環境試験設備等を利用した試験受託サービスや、宇宙環境を再現する小型熱真空試験装置一式のレンタルサービスなどに取り組んでいます。本投資を通じて、オリックスグループと共に宇宙インフラの発展に寄与してまいります。

今後の打上げについて

2024年12月18日に、自社専用ロケット射場「スペースポート紀伊」から打上げた自社開発の小型ロケット「カイロス」2号機は、高度110.7kmまで到達、第1段を正常に燃焼、その後分離を行い、第2段を正常に燃焼開始しフェアリング分離までを達成した上で、安全に飛行中断しました。現在は原因究明に注力しており、原因を特定し、適切な対策を講じた上で3号機の打上げに全力で臨みます。



今後の計画について

スペースワンは 2020 年代中に年間 20 機、2030 年代に年間 30 機の打上げを目標に掲げており、その達成に向けてスペースポート紀伊の打上げ体制の強化に取り組んでまいります。また、ロケットの量産体制を確立するにあたり、民生分野で培われた実績を活用するなど、サプライチェーンの強化および製造体制の整備にも取り組んでおります。これらを通じて、契約から 1 年、衛星受領から 4 日で打ち上げる利便性の高い宇宙輸送サービス「宇宙宅配便」の確立を目指します。

開発状況について

「現行型カイロス」に加え、打上げ能力の増強や、目標軌道への衛星投入精度の向上を目的とし、メタンエンジンを含むロケットの上段部分の能力を向上させる「増強型カイロス」の研究開発を進めています（以下、「本事業」）。本事業は、防衛省より契約金額 85 億円で受託した「アッパーステージ能力向上に関する研究」の一環として実施しています。また、本事業は、文部科学省の「中小企業イノベーション創出推進事業（SBIR フェーズ 3）宇宙分野（事業テーマ：民間ロケットの開発・実証）」に 2023 年 9 月に採択され、2024 年 9 月のステージゲート審査を通過しました。

以上

お問い合わせ先

スペースワン株式会社

Email: info@space-one.co.jp

スペースポート紀伊について

「[スペースポート紀伊](#)：SPK」は、本州最南端の和歌山県串本町に位置する日本で初めての民間のロケット打上げ射場で、宇宙へのアクセスを最短で実現するための包括的なインフラサービスを提供しています。SPK は、南方と東方に開けた地理的特性を活かし、打上げる軌道やタイミングに柔軟に対応できる点が大きな特徴です。宇宙アクセスへの需要は拡大する宇宙ビジネス市場とともに増加し、多様化しています。今後は多数の小型衛星をひとつのシステムとして運用するコンステレーションが、打上げ需要をさらに加速させる見込みです。このようなニーズに対し、スペースワンは「on time, on orbit」、ユーザーが望むタイミングと軌道で衛星を運ぶことを使命としています。柔軟な対応を可能とする自社専用ロケット射場と小型ロケットを備えることで、国内外のユーザーの需要を取り込み、日本および世界の宇宙産業の発展に貢献していきます。

<https://www.space-one.co.jp/site/>